

## 「清河八郎・回天の道」たどる 来月18、19日参加者募集

庄内町出身の幕末の志士、清河八郎が16歳の時に家出して江戸に向かった道を、鶴岡市出身の作家、藤沢周平の小説「回天の門」の記述を手掛かりにたどる「清河八郎・回天の道」文学散歩の旅」が9月18、19の両日行われる。参加者を募集している。

東京のまちづくりグループ「元氣・まちネット」(矢口正武代表、戸沢村出身)が企画。

「まちネット」は八郎が出奔した際の県内ルートを「回天の道」と名付け、去年9月と今年6月の2回に分けて踏査した。また庄内町の住民と協力し、同町肝煎から山伏峠を経て鶴岡市添川に至る峠道を復元した。

「文学散歩の旅」は18日から1泊2日のAコースと、18日に日帰りするBコースがある。Aコースは清河八郎記念館(庄内町)を見学した後、肝煎から歩いて山伏峠を越える。湯田川温泉に泊まり、翌日は鶴岡市の藤沢周平記念館や藤沢文学ゆかりの地を訪ねる。Bコースは清河八郎記念館の見学と山伏峠の散策。

各コース定員40人。参加費はAコース1万7500円、Bコース3500円(山形駅発着は各コース1500円増し)。申し込みは31日まで山新観光トラベルセンター023

(9227) 800271。